

希望の意味探る  
本調査が始まる

東大が釜石で

釜石市を調査地に、希望の意味を探る東大社会科学研究所の「希望学プロジェクト」の本調査が24日、始まった。プロジェクトリーダー役の玄

希望学「市民特別講座」

東大社会科学研究所

田有史・同研究所助教



「失望を軌道修正することが希望につながる」と玄田有史助教は語った＝釜石市で

授が市民に講演し、「失望を恐れては希望はない。人とのつながりから、軌道修正していくことで希望が持てる」と語

った。

市内のホテルで開かれた市民特別講座には約50人が参加した。テーマは「若者が希望を持てる社会を創る」。

玄田助教はまず、5月の予備調査時、中高生から「勉強する意味がわからない」と質問されたことを挙げ、「わからないからこそ、逃げずに挑戦することが大切」と述べた。その上で「希望とは何か。どうすれば希望が持てるのか。1週間の釜石調査では、なかなか分からないと思うが、考え続けたい」と語った。

また、格差問題についても触れ、「一人で解決するのではなく、自分とは違う世界の人とのゆるやかな信頼関係にヒントがある」と指摘した。

調査は30日まで実施し、同研究所の研究者ら約30人が市民にインタビューなどを行う。成果は07年度にまとめ、市民に報告するという。